

世界中の
成長機会を
発掘する。

フィデリティ・ グロース・ オポチュニティ・ ファンド

Aコース(為替ヘッジあり)
Bコース(為替ヘッジなし)
Cコース
(毎月決算・予想分配金提示型・為替ヘッジあり)
Dコース
(毎月決算・予想分配金提示型・為替ヘッジなし)

追加型投信／海外／株式

販売用資料
2025.09

お申込み・投資信託説明書(交付目論見書)のご請求先は

 **香川証券**

商号等: 香川証券株式会社
金融商品取引業者 四国財務局長(金商) 第3号
加入協会: 日本証券業協会

商品紹介ページはこちらから



フィデリティ投信株式会社

 **Fidelity**
INTERNATIONAL

 見やすいユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

私たちには見える。 数年先、 世界を変える企業たちが。

いまはまだ、知られていない。

数年後に、世界的なインパクトを秘めた企業たち。

その成長機会を、あらゆる分野から発掘する。

それが、フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド。

世界最大級のリサーチ網と調査力で。

市場環境の変化に適応する機動的な運用で。

長期的な成長をとらえ、分散型でありながら

インデックスを超えるリターンを創出する。

フィデリティなら、叶えられる。



世界中の成長機会を発掘する。

GROWTH

ファイデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド

OPPORTUNITY

※後述の「ファンドの主なリスク内容について」を必ずご確認ください。 2

Q 「グロース・オポチュニティ・ファンド」の特長とは？

A 幅広い成長機会を発掘し、
企業の持続的な成長をとらえる
ファンドです。



幅広く発掘

フィデリティのグローバルな運用体制を活用し、幅広い国・地域や業種からより多くの有望な成長銘柄を発掘。



持続的に成長

長期的かつ持続的な成長を重視。
中長期の成長性に対して割安な銘柄に投資。

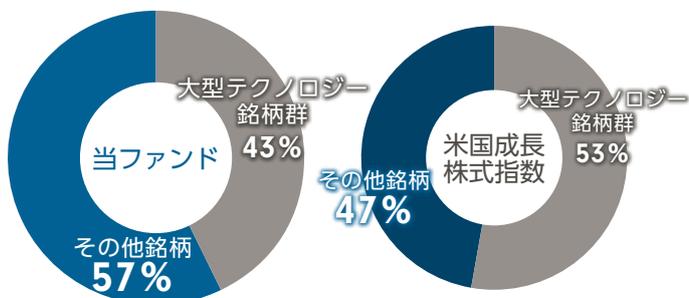
(注) 上記はイメージであり、実績ではありません。2025年2月末時点。ファンドの戦略をご理解いただくための参考として掲載しています。今後予告なく変更する可能性があります。

大型株のみならず中小型株にも積極投資

企業規模や知名度、短期的な業績にとらわれることなく、成長力を重視し企業を選別、投資します。

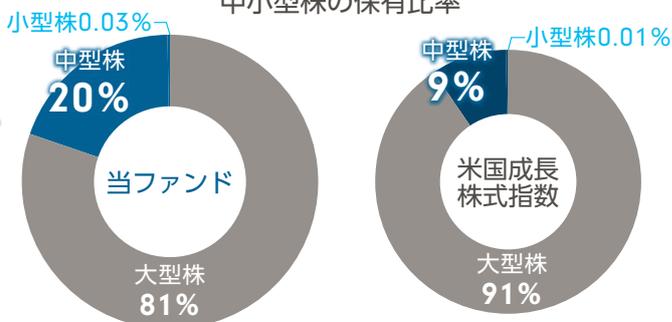
大型テクノロジー株に依存しない運用

大型テクノロジー株の投資比率



より成長力の高い中小型株に厳選投資

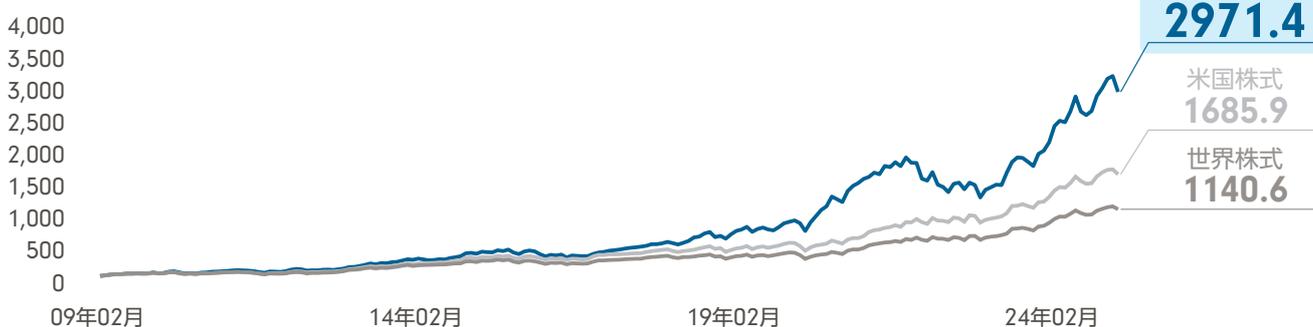
中小型株の保有比率



(注) LSEGよりフィデリティ投信作成。米国成長株式指数: Russell 1000 Growth Index。米ドルベース。2025年2月末時点。全保有株式を100%とした場合の個別銘柄のウエイトを時価総額別に積み上げたもの。左図: 大型テクノロジー銘柄群はマグニフィセント・セブンと呼ばれる銘柄で、Microsoft、Apple、Amazon、Alphabet、Meta Platforms、Tesla、NVIDIA。右図: LSEGよりフィデリティ投信作成。株式の区分は時価総額ベースで、大型株: 500億米ドル以上、中型株: 20億米ドル以上500億米ドル未満、小型株: 20億米ドル未満、左記以外はその他としています。四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。上記は過去の実績であり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。掲載されている個別の銘柄・企業名については、あくまで参考として述べたものであり、その銘柄又は企業の株式等の売買を推奨するものではありません。また、ファンドへの組み入れを保証するものではありません。

長期視点でインデックス型以上のリターンを追求

当ファンドは、幅広い成長機会を発掘しており、同じく長期視点であるインデックス型以上のリターンを期待できます。



(注) FMR Co、LSEGよりフィデリティ投信作成。米国株式: S&P500種指数(税引前配当込み)、世界株式: MSCI Worldインデックス(税引前配当込み)。円ベース。期間は2009年2月末~2025年2月末の月次データ。期初を100として指数化。チャートの期間については、金融危機前後で経済・金融市場の環境が大きく変化したことを踏まえ、金融危機後の直近の長期上昇局面における起点となる2009年2月末を開始時点としています。

上昇相場で特に強みを発揮

当戦略の参考ファンドは上昇局面において大きな成長を見せています。

各局面の騰落率	世界金融危機後 2009年2月末~2010年4月末	欧州債務危機後 2011年9月末~2018年9月末	米中貿易摩擦後 2018年12月末~2019年12月末	コロナ・ショック後 2020年3月末~2021年12月末
参考ファンド	73%	425%	38%	132%
米国株式	59%	342%	30%	100%

(注) FMR Co、LSEGよりフィデリティ投信作成。米国株式: S&P500種指数(税引前配当込み)。各上昇局面は2009年2月末~2025年2月末において、S&P500種指数(米ドルベース)が、世界金融危機、欧州債務危機、米中貿易摩擦、コロナ・ショックにおいて最安値となった月を開始時点とし、その後継続(*)してS&P500種指数が上昇し、その局面の高値を終点とする期間。*継続とは、1年以上にわたって、直近高値から10%以上下落しない局面のこと。騰落率は各局面の期初と期末の差。騰落率は円ベース。



参考ファンドの実績は、当ファンドの投資対象である「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」と同様の運用担当者、投資哲学、運用戦略に基づき運用されている米国籍投資信託「フィデリティ・アドバイザー・グロース・オポチュニティーズ・ファンド クラスA」の実績です。日本では販売されておりません。参考情報として提供することのみを目的として掲載しており、「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」の運用実績ではありません。また、「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」とは費用等が異なります。

※上記は過去の実績であり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。

Q 「分散×長期」で成果を上げるためのポイントとは？

A 世界規模のリーサーチ力と機動的な運用、フィデリティの強みを最大限に活用。



世界規模のリーサーチ力

世界最大級のリーサーチ網と綿密な企業調査・分析をもとに、企業の将来の成長性を高い確度で見極めます。



機動的な運用

3-7年先を見据えつつも、市場環境の変化に適応するために、保有株数の変更を機動的に行います。

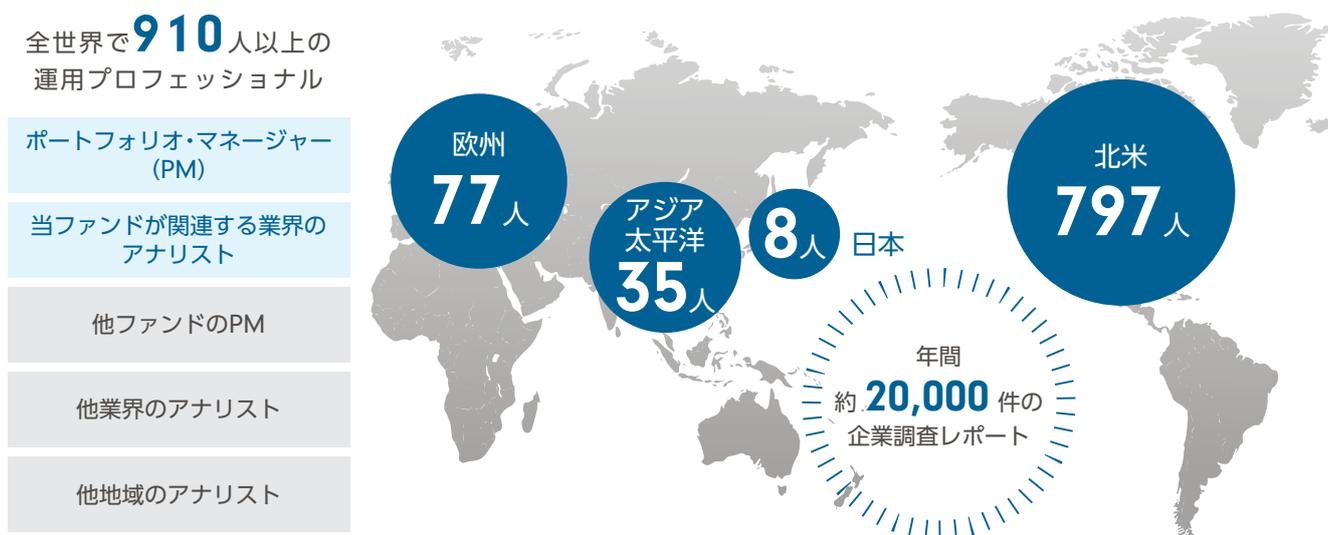
(注) 上記はイメージであり、実績ではありません。2025年2月末時点。ファンドの戦略をご理解いただくための参考として掲載しています。今後予告なく変更する可能性があります。

世界最大級の運用体制で魅力的な銘柄を発掘

市場がまだ気づいていない成長銘柄を徹底的に発掘します。
 フィデリティの根幹である、グローバル規模の調査ネットワークと綿密な個別企業調査。

世界最大級の運用体制

情報の横断的な相互共有が、当社独自のファンダメンタルズ分析の強み



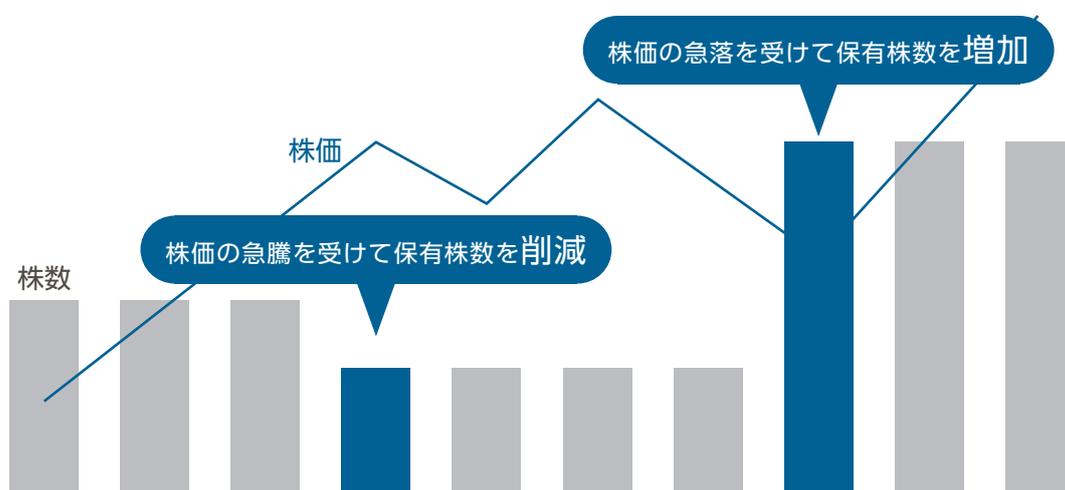
(注) FMR Coよりフィデリティ投信作成。運用プロフェッショナル数は2023年12月末時点。ポートフォリオ・マネージャー、アナリスト、トレーダー、部門マネジメント等を含んだ人数。企業調査レポート数は、株式運用チーム全体での2023年の作成数。

機動的な運用

株価の変動を踏まえて機動的に保有株数を調整

3-7年先を見据えつつも、市場の変化に柔軟に対応。
 株価の変動をとらえ、ポジション(保有株数)の追加や削減を機動的に行います。

機動的な保有株数変化のイメージ図



(注) 上記はイメージであり、実績ではありません。2025年2月末時点。ファンドの戦略をご理解いただくための参考として掲載しています。

幅広い業種から有望銘柄に分散投資

成長の機会は、あらゆる産業に存在します。

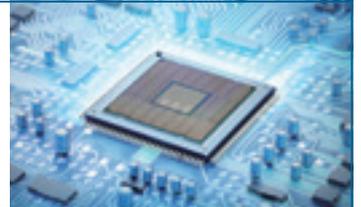
投資先をしっかりと分散しながら幅広い投資機会を発掘します。



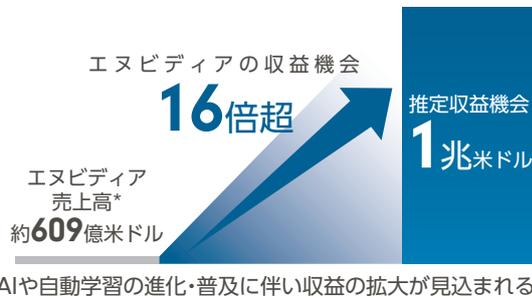
(注)フィデリティ投信作成。上記はイメージであり、実績ではありません。2025年2月末時点。

銘柄紹介 **エヌビディア**

テクノロジーの進化・普及の追い風を受ける高成長銘柄に投資
 画像処理半導体 (GPU) メーカー。生成AI (人工知能) や大規模言語モデル (LLM) に対応した「H100」や画像生成AIなど推論AIに特化した「L4」など超高速GPUに強み。



テクノロジーの進化に伴い収益機会が拡大



保有株数と株価の推移



(注)FMR Co.、LSEGよりフィデリティ投信作成。左図:NVIDIA「InvestorPresentationFebruary26,2025」より。*2024年実績。右図:株数、株価の期間は2019年7月末~2025年1月末。米ドルベース。月次データ。株価は期初を100として指数化。掲載されている個別の銘柄・企業名については、あくまで参考として述べたものであり、その銘柄又は企業の株式等の売買を推奨するものではありません。また、ファンドへの組み入れを保証するものではありません。



当ファンドの投資対象である「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」と同様の運用担当者、投資哲学、運用戦略に基づき運用されている米国籍投資信託「フィデリティ・アドバイザー・グロース・オポチュニティーズ・ファンド」の組み入れ事例です。日本では販売されておりません。参考情報として提供することのみを目的として掲載しており、「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」の事例ではありません。

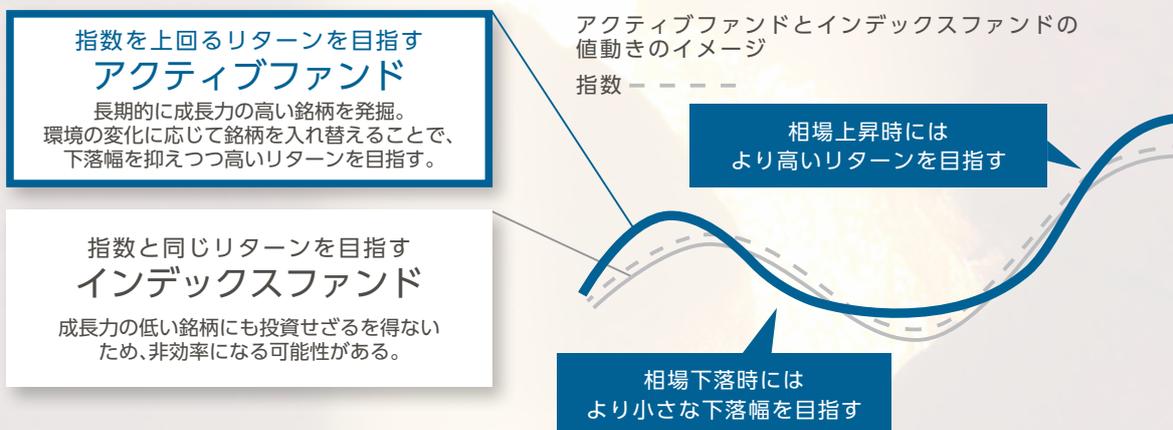
※上記は過去の実績であり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。



インデックスではなく、アクティブファンドを選ぶべき理由とは？



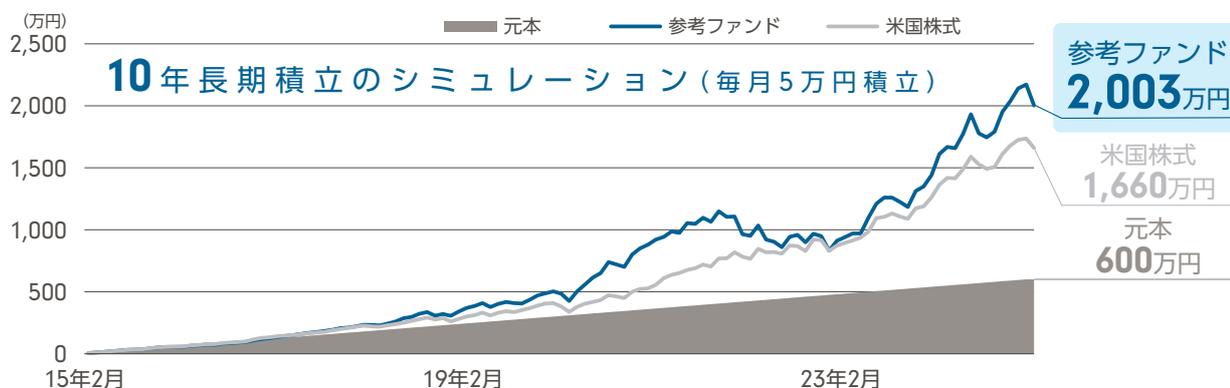
NISAなど、長期投資が前提で、より高いリターンを目指すならアクティブファンドの活用も効果的。



(注) 上記はイメージであり、すべての場合に当てはまるものではありません。フィデリティ投信作成。

長期積立でインデックスを超えるリターン

長期的な成長リターンを目指すアクティブファンドは、積立型の投資スタイルとも好相性です。



(注) FMR Co、LSEGよりフィデリティ投信作成。円ベース。米国株式：S&P500種指数(税引前配当込み)。期間は、2015年2月～2025年2月末の月次データ。参考ファンドの信託報酬率(年率0.74%)を加算、「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド」の信託報酬率(年率1.6445%税込)を控除して算出。購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮せず。期間初から積立を開始、その後毎月末には積立を行うと仮定し、最終月末には積立を行わない。2025年2月末までの参考ファンドのパフォーマンスに基づいた試算です。損失が発生する場合がございます。



当ファンドの投資対象である「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」と同様の運用担当者、投資哲学、運用戦略に基づき運用されている米国籍投資信託「フィデリティ・アドバイザー・グロース・オポチュニティーズ・ファンド」の実績です。日本では販売されておりません。参考情報として提供することのみを目的として掲載しており、「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」の実績ではありません。

※上記は過去の実績であり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。

ファンドの特色・投資リスク

投資方針

- 1 フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）受益証券への投資を通じて、主として世界（除く日本）の金融商品取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）されている企業の株式に投資を行い、投資信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。
- 2 企業の成長性や業績に対する株価の割安度に着目し、運用成果の向上を目指します。
- 3 個別銘柄選択にあたっては、世界の主要拠点のアナリストによる徹底的な企業分析や直接面談による調査を活かした「ボトム・アップ・アプローチ*」により、魅力的な投資機会の発掘に注力します。
*ボトム・アップ・アプローチとは、綿密な個別企業調査活動を行うことにより、企業の将来の成長性や財務内容などファンダメンタルズを調査・分析し、その結果をもとに運用する手法です。
- 4 マザーファンド受益証券の組入比率は、原則として高位を維持します。
- 5 Aコース/Cコースは、実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを活用し、為替変動リスクの低減を図ります。
Bコース/Dコースは、実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
- 6 マザーファンドの運用にあたっては、FIAM LLCに、運用の指図に関する権限を委託します。

※資金動向、市況動向、残存信託期間等によっては、上記のような運用ができない場合があります。
※ファンドは「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」を通じて投資を行います。上記はファンドの主たる投資対象であるマザーファンドの特色および投資方針を含みます。

収益分配方針

- 分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
 - 収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。
 - 留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。
- ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

<Aコース、Bコース>

毎決算時（原則8月20日。同日が休業日の場合は翌営業日。）に、原則として上記の収益分配方針に基づき分配を行います。

<Cコース、Dコース>

毎決算時（原則毎月20日。同日が休業日の場合は翌営業日。）に、原則として上記、及び以下の収益分配方針に基づき分配を行います。毎計算期末の前営業日の基準価額に応じて、下記の金額の分配を目指します。

毎計算期末の前営業日の基準価額	分配金額（1万口当たり、税引前）
11,000円未満	基準価額の水準等を勘案して決定
11,000円以上12,000円未満	200円
12,000円以上13,000円未満	300円
13,000円以上	400円

※毎計算期末の前営業日から当該計算期末までに基準価額が急激に変動した場合等、基準価額水準や市場動向等によっては、委託会社の判断で左記とは異なる分配金額となる場合や分配金が支払われない場合があります。
※基準価額に応じて、分配金額は変動します。基準価額が左記表に記載された基準価額水準に一度でも到達すれば、その水準に応じた分配を継続するというものではありません。
※分配金を支払うことにより基準価額は下落します。このため、基準価額に影響を与え、次期以降の分配金額は変動する場合があります。また、あらかじめ一定の分配金額を保証するものではありません。
※左記表に記載された基準価額および分配金額は将来の運用の成果を保証または示唆するものではありません。

ファンドの主なリスク内容について

基準価額の変動要因

投資信託は預貯金と異なります。
ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。したがって、投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
ファンドが有する主なリスク等（ファンドが主に投資を行うマザーファンドが有するリスク等を含みます。）は以下の通りです。

主な変動要因

価格変動リスク

基準価額は有価証券等の市場価格の動きを反映して変動します。有価証券等の発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなる場合があります。

為替変動リスク

Aコース/Cコースは為替ヘッジを行うことで、為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。なお、為替ヘッジを行う際には当該通貨と円の金利差相当分のヘッジコストがかかる場合があります。Bコース/Dコースは為替ヘッジを行わないため、外貨建の有価証券等に投資を行う場合には、その有価証券等の表示通貨と日本円との間の為替変動の影響を受けます。

カントリー・リスク

投資対象国及び地域の政治・経済・社会情勢等の変化、証券市場・為替市場における脆弱性や規制等の混乱により、有価証券の価格変動が大きくなる場合があります。税制・規制等は投資対象国及び地域の状況により異なり、また、それらが急遽変更されたり、新たに導入されたりすることがあります。これらの要因により、運用上の制約を受ける場合やファンドの基準価額の変動に影響を与える場合があります。なお、新興国への投資は先進国に比べて、上記のリスクの影響が大きくなる可能性があります。
※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

クーリング・オフ

ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

流動性リスク

ファンドは、大量の解約が発生し短期間に解約資金を手当てする必要性が生じた場合や、主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスクや、取引量が限られるリスク等があります。その結果、基準価額の下落要因となる場合や、購入・換金受付の中止、換金代金支払の遅延等が発生する可能性があります。

デリバティブ（派生商品）に関する留意点

ファンドは、ヘッジ目的の場合等に限り、有価証券先物、各種スワップ、差金決済取引等のデリバティブ（派生商品）を用いることがあります。デリバティブの価格は市場動向などによって変動するため、基準価額の変動に影響を与えます。デリバティブが店頭取引の場合、取引相手の倒産などにより契約が履行されず損失を被る可能性があります。

購入・換金申込受付の中止及び取消しについての留意点

金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情（投資対象国・地域における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策の変更や資産凍結を含む規制の導入、クーデターや重大な政治体制の変更等）があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、及び既に受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消す場合があります。

収益分配金に関する留意事項

- 1 ファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、それぞれの投資者ご自身の個別元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 2 分配金は預貯金の利息とは異なり、分配金支払い後の純資産は減少し、基準価額の下落要因となります。
- 3 分配金は計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があり、その場合当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落します。

分配方針や頻度の異なるコースが存在する場合は、投資者は自身の選択に応じて投資するコースを選択することができます。販売会社によってはコース間でスイッチングが可能です。

- 1 投資者のファンドの購入価額によっては分配金はその支払いの一部、または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
 ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりりが小さかった場合も同様です。
 ファンドの購入価額は、個々の投資者によって異なりますので、投資期間全体での損益は、個々の投資者によって異なります。



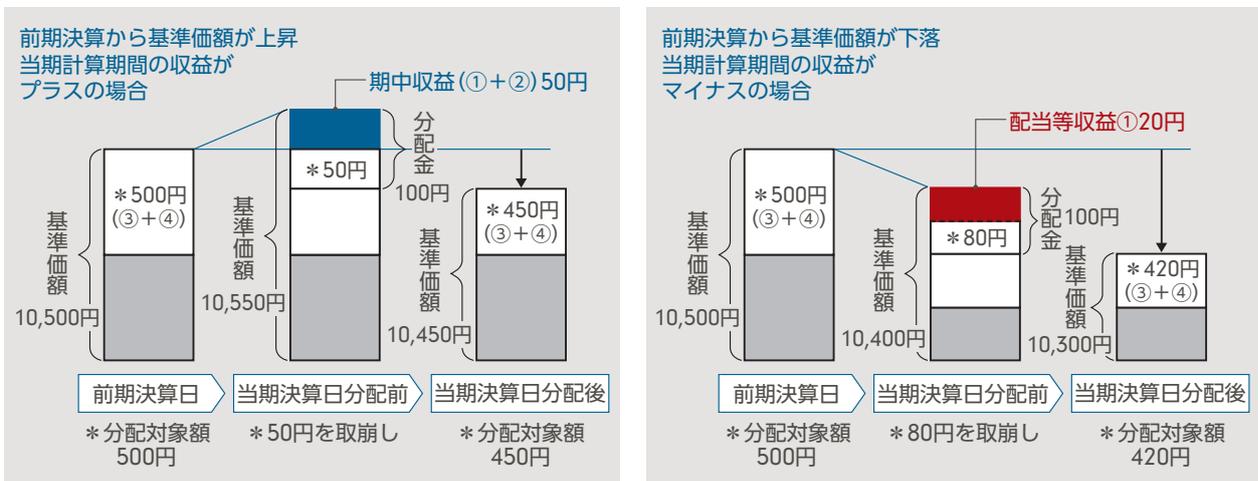
- 「個別元本」とは、追加型投資信託の収益分配金や解約(償還)時の収益に対する課税計算をする際に用いる個々の投資者のファンドの購入価額のことを指します。
 - 「普通分配金」とは、個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
 - 「元本払戻金(特別分配金)」とは、個別元本を下回る部分からの分配金です。実質的に元本の払戻しに相当するため、非課税扱いとなります。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。
- ※普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)をご参照ください。

- 2 分配金は、預貯金の利息とは異なります。分配金の支払いは純資産から行われますので、分配金支払い後の純資産は減少することになり、基準価額が下落する要因となります。



- 3 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の利子・配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。計算期間におけるファンドの運用実績は、期中の分配金支払い前の基準価額の推移および収益率によってご判断ください。

投資信託は、当期の収益の他に、ファンドの設定から当期以前の期間に発生して分配されなかった過去の収益の繰越分等からも分配することができます。



- ※分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、収益分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。
- ※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド

Aコース(為替ヘッジあり)／Bコース(為替ヘッジなし)／Cコース(毎月決算・予想分配金提示型・為替ヘッジあり)／Dコース(毎月決算・予想分配金提示型・為替ヘッジなし)
追加型投信／海外／株式

商品の内容やお申込みの詳細については

委託会社 フィデリティ投信株式会社

インターネットホームページ <https://www.fidelity.co.jp/>

電話番号 0570-051-104 受付時間:営業日の午前9時～午後5時または販売会社までお問い合わせください。

お申込みメモ

信託期間 原則として無期限(2023年3月29日設定)

収益分配 Aコース／Bコース:毎年8月20日、Cコース／Dコース:毎月20日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、収益分配方針に基づき分配を行います。ただし、必ず分配を行うものではありません。

購入価額 購入申込受付日の翌営業日の基準価額

換金価額 換金申込受付日の翌営業日の基準価額

ご換金代金の支払開始日は原則として換金申込受付日より5営業日目以降になります。

申込締切時間 原則として、午後3時30分までに購入・換金の申込みに係る販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日のお申込み受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳細は販売会社にご確認ください。

購入・換金申込不可日 ニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークにおける銀行の休業日においては、スイッチングを含めお申込みの受付は行いません。

換金制限 ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口のご換金には別途制限を設ける場合があります。

スイッチング 販売会社によっては、各コース間にてスイッチングが可能です。スイッチングに伴うご換金にあたっては、通常のご換金と同様に税金がかかります。

※なお、販売会社によってはスイッチング手数料がかかる場合があります。詳細は販売会社にお問い合わせください。

ファンドに係る費用・税金

購入時手数料 **3.30%(税抜 3.00%)を上限**として販売会社がそれぞれ定める料率とします。

換金時手数料 なし

運用管理費用(信託報酬) 純資産総額に対し**年率1.6445%(税抜 1.495%)**

その他費用・手数料

- ・組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用等がファンドより支払われます。(運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を表示できません。)
- ・法定書類等の作成等に要する費用、監査費用等がファンドより支払われます。(ファンドの純資産総額に対して年率0.10%(税込)を上限とします。)

税金 原則として、収益分配時の普通分配金ならびにご換金時の値上がり益および償還時の償還差益に対して課税されます。税法が改正された場合等には、上記内容が変更になる場合があります。

信託財産留保額 ありません。

※当該手数料・費用等の上限額および合計額については、お申込み金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※課税上は株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。Aコース／Bコースは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。Cコース／Dコースは、NISAの対象ではありません。

※ファンドに係る費用・税金の詳細については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他の関係法人

委託会社 フィデリティ投信株式会社

【金融商品取引業者】関東財務局長(金商)第388号

【加入協会】一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

受託会社 三菱UFJ信託銀行株式会社

運用の委託先 FIAM LLC(所在地:米国)

販売会社 販売会社につきましては、委託会社のホームページ(アドレス:<https://www.fidelity.co.jp/>)をご参照ください。

●当資料はフィデリティ投信によって作成された最終投資家向けの投資信託商品販売用資料です。投資信託のお申込みに関しては、以下の点をご理解いただき、投資の判断はお客様ご自身の責任においてなさいますようお願い申し上げます。なお、当社は投資信託の販売について投資家の方の契約の相手方とはなりません。

●投資信託は、預金または保険契約でないため、預金保険および保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。また、金融機関の預貯金と異なり、元本および利息の保証はありません。販売会社が登録金融機関の場合、証券会社と異なり、投資者保護基金に加入しておりません。

●「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンドAコース(為替ヘッジあり)／Bコース(為替ヘッジなし)」[「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンドCコース(毎月決算・予想分配金提示型・為替ヘッジあり)／Dコース(毎月決算・予想分配金提示型・為替ヘッジなし)」]が投資を行うマザーファンドは、主として世界の(除く日本)の企業の株式等を投資対象としていますが、その他の有価証券に投資することもあります。

●ファンドの基準価額は、組み入れた株式やその他の有価証券の値動き、為替相場の変動等の影響により上下しますので、これにより投資元本を割り込むことがあります。また、組み入れた株式やその他の有価証券の発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに関

する外部評価の変化等により、投資元本を割り込むことがあります。すなわち、保有期間中もしくは売却時の投資信託の価額はご購入時の価額を下回ることもあり、これに伴うリスクはお客様ご自身のご負担となります。

●ご購入の際は投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめまたは同時にお渡しいたしますので、必ずお受取りのうえ内容をよくお読みください。

●投資信託説明書(交付目論見書)については、販売会社またはフィデリティ投信までお問い合わせください。なお、当ファンドの販売会社につきましては以下のホームページ(<https://www.fidelity.co.jp/>)をご参照ください。

●当資料は、信頼できる情報をもとにフィデリティ投信が作成しておりますが、正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。

●当資料に記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。また、いずれも将来の傾向、数値、運用結果等を保証もしくは示唆するものではありません。

●当資料にかかわる一切の権利は引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部又は全部の無断での使用・複製は固くお断りいたします。